

子どもを守る方法 住民ら話し合う

安全の日の集い

2004年11月に有山ゆま楓さん(当時7)が誘拐、殺害された事件を受け、奈良市などが毎年開く「子ども安全の日の集い」が17日、市役所であった。学校の保護者や教員、地域住民らが身近に潜む危険から子どもを守る方法を話し合った。

楓さんが通った市立富雄北小の教員らが安全マップ作りや集団登下校の取り組みを紹介。松井典夫・奈良学園大准教授は「子ども自身がつさに判断し、身を守るよう、教えていく必要がある」と話した。

別室では「生命のメッセ



「シ展」も開催。00年に交通事故で長男を失った奈良市の児島早苗さん(68)がつくったNPO法人KENNTOの協力。事故や事件で亡くなった子どもたちの等身大パネルなど33人分を飾り、

命の大切さを伝えた。同市中町の小学校教諭、道上雅彦さん(32)は「子どもの命を預かる1人としてできることを考えます」と話した。

(加治隼人)